
夢を叶える 第二話

村津 ヨシタ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

夢を叶える 第二話

【Nコード】

N1549BA

【作者名】

村津 ヨシタ

【あらすじ】

タバコと缶コーヒーとレッドツェツペリン。何に惚れ込んだがこの頃の俺達のアイデンティティだった。何ができるのか何になれるのか全然分からなかった。ギターの弾き方も恋も学校じゃ習わない。信じた道を進むしかなかった俺と仲間達のストーリー。

レッドツェッペリン。

こんなにカツコイイ奴らがいるなんて知らなかった。既に孤高の聖域に立つ、歴史に残るようなロックバンドだ。タバコの煙りで白くむせる小さな部屋で俺達はツェッペリンのようなバンドになる夢を描いた。

フジケンはこの時既にかなりのギターの弾き手だった。仲間の間では最初にプロになるのはフジケンだと言われていた。俺もフジケンには期待していた。こいつのアルペジオは聞いていて惚れそうになる。

俺の方はというと日々タバコの本数は増えるもののツェッペリンの完コピーすら怪しいものだった。それでも俺とフジケンを含め何人かのツェッペリン教徒の友情は夏の終わりも秋の憂鬱も乗り越えた。やがて冬休みになり街はクリスマス一色になった。ロックに全てを捧げた俺達にはクリスマスを楽しむ事は許されない。本当は高校受験も控えていて、フジケンが高校に行かない事を知ったのはこのころだった。その日は12月24日でやたら寒い一日だった。誰が言い出したかわからないが冬の花火を打ち上げる事でやたら話が盛り上がった。ツェッペリン仲間のコンが言うには、冬は空気が澄んでるので夏よりも花火が美しく見えるのだそうだ。この頃、フジケンには好きな女がいた。二つ年上の高校生だった。このクリスマス花火計画には深く関わりのある女なのだ。

元はフジケンの兄貴が街でナンパした女らしい。しかし女はフジケンの兄貴に見向きもせず立ち去った。脇で小さくなって見ていただけのフジケンがその女に惚れた。という訳だ。とにかく無茶苦茶眩しかったんだよな。フジケンはまだ女に顔も見られていないと言う。ずっと前を向いて歩いていたからさ。俺とは目も合わせてないんだ。俺はさ、今度はでっかい花火をあの子の目の前であげて絶対に振り

向かせたいんだ。フジケン我真剣だった。その女子高生が定期的にその道を通る事はリサーチ済みだった。近くのアイスクリームショップでバイトをしている事をフジケンがストーカーすれすれになつて突き止めたのだ。

花火の打ち上げ場所はアイスクリームショップからバス停までの約800メートルの通りにある公園だ。

フジケンは初めてその女子高生に出会うために、俺達は友情のために念入りに準備を進めた。俺とは目も合わせてないんだ。俺はさ、今度はでっかい花火をあの子の前であげて絶対に振り向かせたいんだ。フジケンは真剣だった。その女子高生が定期的にその道を通る事はリサーチ済みだった。近くのアイスクリームショップでバイトをしている事をフジケンがストーカーすれすれになつて突き止めたのだ。

花火の打ち上げ場所はアイスクリームショップからバス停までの約800メートルの通りにある公園だ。

フジケンは初めてその女子高生に出会うために、俺達は友情のために念入りに準備を進めた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n1549ba/>

夢を叶える 第二話

2012年1月4日09時47分発行